

授業時 一人一人に応じた机間指導をする

算数の「大きな数」の学習は、子供によってはとても理解しにくい内容である。C教諭は、つまずきそうな子供に対して、位どり表などの補助教材をあらかじめ用意して授業に臨んだ。

机間指導中、Dさんのえんぴつが動いていないのに気付いたC教諭は、机の横にしゃがみこんで話しかけた。

C教諭：「どうしたのかな？よく分からないところがある？」

Dさん：「…」

C教諭：「この位どり表を使って考えてみようか。一万が3こだったら、どこに3と書けばいいかな？」

Dさん：「ここ。」

C教諭：「そうだね。では一万が13coだったら、どういうふうに書けばいいかな？」

Dさん：（位どり表に13と記入し）「これでいいの？」

C教諭：「そうだよ。できたね。」

Dさん：「先生、分かったよ！」



子供に寄り添い、子供の立場に立って共に考えることは、机間指導の重要な姿勢です。

机間指導の計画を立てる

机間指導は個に応じた指導の機会として、大きな価値をもっています。教師が一人一人の子供を理解する機会であるとともに、子供のそばに行くことによって安心感を与えたり、課題に対して個別指導できるチャンスです。事例のように、机間指導では、そのときそのときの状況に応じて子供を指導する事が重要です。

しかし、それだけに終わってしまっただけでは、机間指導を十分活用したことにはなりません。一人一人の子供の情報を集約しておき、あらかじめ指導案に机間指導の計画を盛り込んでおくなどして、何を、誰に、どのように指導するかを明確にしておくことが大切です。

子供の気持ちに配慮して指導する

事例では、Dさんの横に行き、しゃがみ込んで話しています。Dさんの目の高さになって話しかけたのです。子供の目の高さで、向かい合うことは、子供の立場に立って一緒に考えることにつながり、机間指導でも忘れてはならないことです。

また、机間指導は子供に一对一で向かい合える時間なので、子供の気持ちを確かめたり、子供の気持ちを傾聴したり、気持ちを受け入れようとする教師の基本的な姿勢が重要であることは言うまでもありません。

ところで、机間指導で話しかけた教師の一言が、周りの子供たちに聞こえて、恥ずかしい思いをしたと言った子供もいます。

個々の子供への慎重な配慮をもって机間指導を行いたいものです。